

令和 2 年度

運営に関する計画

最終評価



大阪市立鶴見小学校

大阪市立鶴見小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【現状】

- 大阪市教育基本計画に基づき、学校経営方針を「自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に探究できる子どもを育てる」と設定し、自己発揮・自己変容のある教育活動を推進している。
- 異学年集団で活動を行うキッズファミリーの取り組みを継続することが、子ども一人一人が自分のもつている力を発揮し、それが思いやりの心を育てるにつながっている。
- 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現のため、本年度より教科化となる道徳教育の充実を図る。

【課題】

- 本校の子どもは大変素直であるが、読む力・書く力・表現する力に課題がみられ、自分の思いや考えをうまく表現できない傾向がある。それは、全国学力・学習調査の結果(習得のA問題はよいが、活用のB問題には課題がある)にも見られ、言語活動の充実と習熟度別学習やT. T. を活用した授業づくりを推進する必要がある。
- I C T (Information Communication Technology)を活用した教育活動の取組については、大型液晶テレビの各教室への導入、タブレット、パソコンなどの活用をさらに深め、取り組みを進める必要がある。
- 若手教員の増加により、「アクティブラーニング」など対話的学習の手法を研究し、教員が魅力ある授業の展開を進める必要がある。
- 英語学習の全学年での導入に伴い、校内で共通して取り組む時間を設け、英語に常に親しんでいく環境を整えていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 平成32年度の小学校学力経年調査や校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と答える割合を95%以上にする。
- 平成32年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害の子どもの割合を0にする。
- 平成32年度末の校内調査において、新たに不登校になる子どもの割合を0にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校経年調査における標準化得点（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）を、平成28年度より5ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における正答率54%以下の子どもを同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント減少させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における活用に関する問題の正答率8割以上の子どもの割合を同一の母集団で比較し、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の小学校経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する子どもの割合を、平成28年度より8ポイント向上させる。
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である20mシャトルランの平均記録を、平成28年度より1.6ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- (A) 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- (B) 令和2年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。
- (C) 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- (D) 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- (A) 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- (B) 令和2年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に対して、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- (C) 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。
- (D) 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0%にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- (E) 令和2年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- (G) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- (H) 令和2年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- (I) 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、元年度（男子36.34 女子35.74）より向上させる。

学校の年度目標

- (E) 令和2年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (F) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- (G) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- (H) 令和2年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より1ポイント増加させる。
- (I) 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、元年度（男子36.34 女子35.74）より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標 (達成状況)	区分	年度目標の達成状況 および 結果と分析	進捗 状況
安全な学校の実現 (B)	子どもが安心して成長できる 安全で安心できる学校、教育環境の実現	【いじめを未然に防止するための取り組みを推進する】 100%で達成。管理職をはじめ、いじめ対策委員会を中心にして組織的に対応できていた。	B
	安全で安心できる学校、教育環境の実現	【月目標を毎週の児童朝会で確認し、定着を図る】 結果が94%と、目標を1%下回ったが、おおむね定着できていた。守っていないと思う児童の意識を変えていく必要がある。	B
	道徳心・社会性の育成	【人・もの・こととふれ合う体験的な活動を通して、幅広い人間性を育む】 コロナ禍において体験的活動に制限があったため十分でなかったが、工夫して活動ができた。	B
	道徳心・社会性の育成	【子どもの実態を踏まえた適切な支援を行い、一人一人の違いを認める集団を育てる】 特別支援研修会等により、適切な支援につなげることができた。	B
心豊かに力強く生き抜き 未来を切り拓くための学力・体力の向上	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる授業づくり・教材研究を行う。また、個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、指導力の向上を図る】 一人一回以上の公開授業、OJT や学力向上支援員による指導により、教員の指導力が向上し、個に応じた指導を充実することができた。その結果、児童の学習への興味・関心を高めることができた。	A
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【全学年でICT機器を活用しながら、子どもが意欲的に学習活動を行うことを目標として授業研究に取り組む】 ICT 支援員と協力し、プログラミング学習も行うことで、タブレット等 ICT 機器を活用する機会が増え、意欲的な学習につながった。	B
	子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組	【主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を推進する】 コロナ禍の中であったが、工夫をしながら主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業に取り組むことができた。	B

	<p>国際社会において生き抜く力の育成</p>	<p>【英語活動に親しむことを通じて、自己表現力の素地を養う】</p> <p><u>中間評価以後指標変更</u></p> <p>【学校アンケート「外国語の学習は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、77%より増加させる】</p> <p>78%で達成できた。低学年からの英語活動が定着して、英語が身近に感じる児童が増えた。</p>	<p>B</p>
	<p>健康や体力を保持増進する力の育成</p>	<p>【柔軟性が高まる運動に取り組む】</p> <p>体育の授業時間内に、一回以上ストレッチを意識した体操や運動に取り組めた。委員会活動のポスター掲示やストレッチ紹介を通してストレッチへの意識は高まった。</p>	<p>A</p>

大阪市立鶴見小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>(A) 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 100%</p> <p>(B) 令和2年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。 94%（児童アンケート）</p> <p>(C) 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 R1 0 ⇒ R2 0</p> <p>(D) 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 R1 0% ⇒ R2 0.2%</p>	B
<p>学校の年度目標</p> <p>(A) 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 100%</p> <p>(B) 令和2年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。 94%（児童アンケート）</p> <p>(C) 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。 0</p> <p>(D) 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0%にする。 0.2%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめを未然に防止するための取り組みを推進する。		B
指標 配慮を要する子どもの情報交換を月2回実施し、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応していく。		A-1 B-6
取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 月目標を毎週の児童朝会で確認し、定着を図る。		B
指標 毎週1回、各教室にて目標についての振り返りを行う。 毎週1回、各教室にて目標についての振り返りを行い、強化週間を設ける。		A-1 B-5 C-1
取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】 人・もの・こととふれ合う体験的な活動を通して、幅広い人間性を育む。		B
指標 学期に1回、子どもの実態に応じた体験的な活動を実施する。 コロナ禍でも工夫しながら、学期に1回、子どもの実態に応じた体験的な活動を実施する。		B-7
取組内容④【施策 2 道徳心・社会性の育成】 子どもの実態を踏まえた適切な支援を行い、一人一人の違いを認める集団を育てる。		B
指標 学期に1回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態を多面的にとらえ、適切な支援を行っていく。		A-1 B-6
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① 認知したいじめについて解消した割合が100%という結果から、管理職をはじめ、いじめ対策委員会を中心にして組織的に対応できていた。</p> <p>② 「学校のきまり・規則を守っていますか」の結果が94%と、目標を1%下回った。看護当番の反省を踏まえた話により、月目標はおおむね定着できていたが、守っていないと思う児童の意識を変えていく必要がある。</p> <p>③ コロナ禍において体験的活動に制限があったため、本来行える活動が十分でなかったが、少しでも活動ができるよう工夫されていた。</p> <p>④ 特別支援研修会等により、適切な支援につなげることができた。</p>		
次年度への改善点		
<p>① いじめにつながる小さな事案を見逃さないよう、引き続き情報の共有を図っていく。</p> <p>② 教室での振り返りや朝会での指導を徹底していく。月目標のさらなる強化週間（学期に一回）をもうけ、意識付けを図る。</p> <p>③ 児童の不安な気持ちを支えることにつながるピアサポートなどの活動を取り入れていく。コロナ感染症対策に重点を置き、引き続き活動を工夫していく。</p> <p>④ 合理的配慮の視点をもとに継続支援していく。</p>		

大阪市立鶴見小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標	
(E) 令和2年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
R1 3年 99.0 ⇒ R2 4年	
4年 103.2 ⇒ 5年	
5年 103.6 ⇒ 6年	
(F) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。	
R1 3年 15.3% ⇒ R2 4年 %	
4年 11.6% ⇒ 5年 %	
5年 2.8% ⇒ 6年 %	
(G) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。	
R1 3年 25.4% ⇒ R2 4年 %	
4年 44.9% ⇒ 5年 %	
5年 39.4% ⇒ 6年 %	
(H) 令和2年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
R1 78.2% ⇒ R2 %	
	87% (児童アンケート)
(I) 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、元年度（男子 36.34 女子 35.74）より向上させる。	
R2 男子 37.47	女子 40.74
	(新体力テスト)

学校の年度目標

(E) 令和2年度小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

R1	3年	99.0	⇒	R2	4年
	4年	103.2	⇒		5年
	5年	103.6	⇒		6年

(F) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

R1	3年	15.3%	⇒	R2	4年	%
	4年	11.6%	⇒		5年	%
	5年	2.8%	⇒		6年	%

(G) 令和2年度小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。

R1	3年	25.4%	⇒	R2	4年	%
	4年	44.9%	⇒		5年	%
	5年	39.4%	⇒		6年	%

(H) 令和2年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より1ポイント増加させる。

R1	78.2%	⇒	R2	%
87% (児童アンケート)				

(I) 令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である長座体前屈の平均の記録を、元年度(男子36.34 女子35.74)より向上させる。

R2	男子37.47	女子40.74
(新体力テスト)		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる授業づくり・教材研究を行う。また、個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、指導力の向上を図る。 子どもが興味・関心をもちながら学習に取り組むことができる環境づくりを行う。	A A-3 B-2
指標 学習意欲の向上や個に応じた指導をより充実させるために、全教員が年間一回以上の公開授業を行う。	

<p>学習に対しての興味・関心を少しでも高められるように、週一回自主学習ノートの点検を行う。</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 全学年でICT機器を活用しながら、子どもが意欲的に学習活動を行うことを目標として授業研究に取り組む。 個に応じた指導を充実させるために、学習時間の設定の仕方や、学習シートについて検討し、学力の向上を図る。</p>	<p>B A-2 B-3</p>
<p>指標 年間計画を立てて、各クラス年間一回以上のプログラミング学習を行う。 学習内容の理解がより深まるように、学年や担当間で週に3回教材についての検討を行う。</p>	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】 主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を推進する。</p>	<p>B A-1 B-2 E-1</p>
<p>指標 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた研究授業・公開授業を年間6回行う。 全教員が主体的・対話的で深い学びの視点に合った公開授業を年一回以上行う。</p>	
<p>取組内容④【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 英語活動に親しむことを通じて、自己表現力の素地を養う。 ICT機器を使用することで、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。</p>	<p>B A-1 B-3 E-1</p>
<p>指標 <u>中間評価以後変更</u> 2月学校アンケートにおける「外国語の学習は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合を、10月の77%より増加させる。 2月 78% 一人一台パソコンを活用した授業を学期に一回以上行う。</p>	
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 柔軟性が高まる運動に取り組む。</p> <p>指標 体育の授業時間内に、一回以上ストレッチを意識した体操や運動に取り組む。 運動委員会を中心に、ストレッチを意識できるポスターを作り啓発する。 運動委員会を中心にストレッチを意識できるよう啓発する。</p>	<p>A A-3 B-2</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 年間一回以上の公開授業、OJTや学力向上支援員による指導により、教員の指導力が向上し、個に応じた指導を充実することができた。その結果、児童の学習への興味・関心を高めることができた。</p> <p>② ICT支援員と協力し予定通り行うことができた。プログラミング学習を行うことで、ICT機器の使用に慣れることができ、これまで以上にタブレットを活用する機会が増え、意欲的な学習につながった。</p> <p>③ 研究発表に向けて、計画的に研究授業や各学年の取り組みをすすめることができた。コロナ禍の中であったが、工夫をしながら主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業に取り組むことができた。</p>	

- ④ 学校アンケートの「英語の学習は好きですか」の質問に対する肯定的な意見の割合が、77%から78%に向上した。低学年からの英語活動が定着し、英語を身近に感じる児童が増えた。
- ⑤ 各学年において体育の授業時間内に、準備運動やラジオ体操、整理運動などの活動を通して、ストレッチを意識した運動をすることができた。今年度実施した運動委員会のストレッチを意識するポスターの掲示、集会でのストレッチの紹介などの取組を通して、ストレッチへの意識は高まった。

次年度への改善点

- ① 教材の研究・分析を通して、さらに児童の学習意欲を高められるよう取組を継続していく。
- ② 一人一台タブレットの活用方法を模索し、環境の整備も行っていく。
- ③ 感染症対策を行いながら、さらに主体的・対話的で深い学びを推進できるよう工夫を重ねていく。
- ④ C-NETの先生との打ち合わせを効果的に行い英語学習の指導を充実させるとともに、児童がより英語に親しむ機会を設けていく。
- ⑤ 5年生以上の学年は長座体前屈の記録を取ることができたので、その結果をもとに記録の向上を目指す。1～4年生は今年度記録が取れていないので、来年度の状況に応じて、できるだけ記録を取るようにする。運動委員会を中心にストレッチの啓発は継続していく。